

授業実践

7月10日より朝ヶ丘中学校の2年生で「1次関数」の授業をさせていただいております。この単元は「個別最適な学習の実現」を目指して複線型で行っています。最初の数時間は、この単元の授業の進め方を説明したり、実際にその方法でやってみたりして、流れを掴む時間としました。子どもたちからすると、普段と違う先生が来て普段と違うやり方で授業を進め始めたので、戸惑うことも多かったのではないかと思います。私も、学級の実態を十分に掴みきれていなかったため、不安を抱えて授業をすることになりました。

私の場合は、これまで授業をしたことがない生徒たちを対象にすることの不安もありましたが、面識のある学級でも、これまでやってきたことと違うことをするときには不安はつきものだと思います。

実際に授業をさせていただく前に、授業の様子を見せていただいたり、休み時間に子どもたちとコミュニケーションを取ったりするようにしました。少しずつ、クラスの雰囲気は分かってきたのですが、まだ、一人ひとりのことを理解するには至っていません。これからも、生徒理解を進めたいと思っています。



不安要素

- 生徒理解が十分でなく、誰にどの程度の支援が必要か分からない。
- 人間関係が把握できておらず、困っている生徒がいたときに誰が助けてくれるのかが分からない。
- 『学び合い』がうまく機能するかどうか分からない。
- 学習したことをノートに自力でまとめられるかどうか分からない。
- 時間内に本時の目標を達成することができるかどうか分からない。

以下に、実際に授業を行った様子と、感じたこと・気付いたことをご紹介します。



1時間目は、授業の受け方のガイダンスをした後、教科書を自分で読んで「1次関数」の定義をまとめるという活動を子どもたちに預けてみました。しかし、これまでにそのような学習をしてきていないのにいきなり飛躍したことをさせてしまったため、ほとんどの生徒が自分でまとめるところまではいき

ませんでした。結局、最後は一斉指導で「1次関数」の定義をまとめることになりました。

1時間目の授業が終わってすぐ、学級の中の人間関係について生徒に個別で確認し、「Aさんが困っているときはBさんなら声をかけられる」「Cさんは休み時間によくDさんと一緒にいる」等の情報を得ました。



2時間目は練習問題を解くことが中心でした。この時間は、1人で困っている生徒に教師が声をかけるのではなく、得た情報を基にして、生徒同士で声をかけあうように促しました。最終的には、困っている生徒から助けを求められるようになってほしいですが、そのためにはその授業、学級内における「心理的安全性」が確保されてなければいけません。これについては一朝一夕でできることではないので、子どもたちと丁寧な対話を重ね、仲間づくりの活動を継続的に行う必要があると思っています。

この時間の課題としては以下のものが挙げられます。

- ▼時間の余裕がなく、最後まで問題に取り組めた生徒と取り組めなかった生徒ができてしまった。
- ▼学習が進まないにもかかわらず、学び合いのグループが固定化していることが気になった。
- ▼困っている生徒が人を頼らずに授業が終わったり、声をかけるまで動かなかったりした。

この課題を改善するために、次のような工夫をしました。

- ・全員が取り組む課題の量を減らす。⇒終わった生徒が取り組める課題を用意する。
- ・全員でできるようになることが大切だという共通認識を改めてもつ。

3時間目は、最初の2時間で学習したことの復習を行いました。この時間はこれまでに比べて、学び合いを積極的に行っている生徒が多いように感じましたが、課題も残っています。

- ▼早々に終わっているが、違うことで時間をつぶしている生徒がいた。
- ▼取り掛かるまでに時間がかかる生徒がいた。

まだまだこの方法で授業をするには、基本的な部分から修正しなければいけないと感じました。2学期は、この反省を生かして実践を深めていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

